

第65回治山研究発表会及び第63回治山シンポジウム開催概要

- 目的**：治山に関する技術の研究・情報交換並びに保安林制度、林地開発許可制度及び盛土規制法（以下、「保安林制度等」という）の運用等を通じて、治山技術の向上、森林の保全に関する科学技術の振興及び保安林制度等の円滑な推進を図り、もって国土の保全、水資源の涵養等に寄与する
- 日時**：令和7年9月10日（水） 開会式、特別講演、研究発表会、意見交換会
9月11日（木） 研究発表会、シンポジウム、閉会式（表彰式）
※開催期間中は終日パネル展示・新技術紹介ブースあり
- 開催場所**：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大・小ホール
（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
- 主催**：治山研究発表会・治山シンポジウム実行委員会
（構成団体：林野庁、森林総合研究所、治山研究会、治山懇話会）

5. 開催内容

○第65回治山研究発表会

(1) 特別講演（別添1参照）

(2) 研究発表会

第1セッション 山地災害からの復旧対策、事前防災等における取組

第2セッション 保安林、盛土規制、森林保全等における取組

第3セッション 調査、設計、計画策定等における取組

第4セッション 施工、維持管理等における取組

※セッション名は今後の発表数や発表内容により変更する可能性あり

(3) パネル展示、新技術紹介ブース

○第63回治山シンポジウム（別添2参照）

6. 開催スケジュール

9月10日（水）	9：00～ 受付開始		終日 パネル展示・ 新技術紹介 ブース
	9：30～ 開会式		
	10：00～ 特別講演		
	11：30～ 昼休憩		
	12：30～（大ホール） 研究発表	12：30～（小ホール） 研究発表	

※研究発表の終了時間は17：30頃予定、時間は今後の発表数により変更する可能性あり

9月11日（木）

9：00～ 受付開始		終日 パネル展示・ 新技術紹介 ブース
9：15～ （大ホール） 研究発表	9：15～ （小ホール） 研究発表	
11：15～ 昼休憩		
12：30～ 治山シンポジウム		
15：00～ 研究発表表彰式、閉会式		

※閉会式の終了時間は15：30頃予定、時間は今後の発表数により変更する可能性あり

第65回治山研究発表会「特別講演」

演 題：「里山生態系の保全と再生—千葉と福島から」

講演者：小林 達明（こばやし たつあき）

千葉大学 名誉教授



〜〜〜〜 プロフィール 〜〜〜〜

砂漠化地域の緑化研究に始まり、里山の生物多様性の回復、福島第一原子力発電所事故に伴う対策に至るまで、長年にわたって自然環境の再生に関わる生態学的研究に従事し、40年以上の豊富な経験を持つ。専門知識を活かし、国や自治体の専門家や審議会委員を務めるなど、多岐にわたりご活躍。これまでの研究と実務を通じ、自然環境保全と景観形成に貢献している。

研究キーワード

再生生態学、里山、生態系劣化、生物多様性保全、風倒木、福島第一原子力発電所事故ほか

略歴

- 1985年 京都大学大学院農学研究科博士課程中退
- 1985年 千葉大学園芸学部 助手
- 1993年 京都大学博士（農学）
- 1995年 千葉大学園芸学部 准教授
- 2007年 千葉大学大学院園芸学研究科 教授
- 2015年 千葉大学大学院園芸学研究科長（2020年まで）
- 2017年 千葉大学副学長（2021年まで）
- 2020年 千葉大学附属図書館松戸分館長
- 2024年 千葉大学 名誉教授

受賞歴

2006年日本緑化工学会 技術賞・論文賞など

所属学会等

日本緑化工学会、日本造園学会、日本森林学会、特定外来生物等専門家会合（植物主査）、自然再生専門家会議、東京都自然環境保全審議会、国土環境緑化協会連合会（会長）ほか

書籍等出版物

「生物多様性緑化ハンドブック」（地人書館）、「Good Earths—Regional and Historical Insights into China's Environment」（Kyoto University Press）、「ミツバツツジはささやく—房総・里山の社会生態学」（千葉日報社）ほか多数

第 63 回治山シンポジウムテーマ

「気候変動時代における水源涵養機能の高度発揮に向けた
森林管理のあり方」**趣 旨**

近年の気候変動により、降雨量や降雨パターンが変化し、極端な集中豪雨の発生や台風の頻度・強度の増加により洪水リスクが高まっている一方で、気象庁や環境省の報告によると、長期間の少雨により渇水が発生するリスクがあるとされている。

このような中、森林は、蒸発散により降雨を大気に還元し、またその土壌は降水を徐々に地中へ浸透させ、地中深くで貯留することにより、地下水の補給や河川の流量の安定化に寄与する等、健全な森林は、洪水時の河川のピーク流量を抑制する一方で、渇水時にも水資源を確保し、地域の水供給を支える重要な役割を果たしている。

令和 6 年 8 月に見直された「水循環基本計画」では、気候変動の影響等を踏まえた水循環の総合的かつ計画的な推進が強調されており、流域の総合的かつ一体的な管理の枠組みの推進や、地下水の適正な保全及び利用、貯留・涵養機能の維持及び向上が重要な施策として掲げられている。また、流域治水の取組が始まって 5 年目となり、その成果と課題を踏まえたさらなる推進が求められている。

洪水や渇水のリスクへの対応には、持続可能な森林管理や植林活動の推進、地域コミュニティや企業等との協力が必要であり、適切な森林管理により、土壌の浸透能が高まり、洪水緩和機能や水資源貯留機能が向上することが期待され、渇水時にも安定した水供給が可能となる。また、気候変動に対応した森林管理の技術や知識の普及も求められる。

シンポジウムでは、気候変動がもたらす洪水や渇水リスクとその対応策について議論し、今後の森林管理のあり方を検討する。

実施内容

① 話題提供（60 分程度）

- ・「広域森林情報を活用した水資源かん養量の定量評価：気候変動時代に向けた視座」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 五味 高志 氏

- ・「長期観測から分かる森林の水源涵養機能と今後の予測」

森林総合研究所 森林防災研究領域 領域長 阿部 俊夫 氏

- ・「「麗しき 水を育む 治山事業」 名水の里やまなしを守る治山事業」

山梨県 森林環境部 治山林道課 課長 篠原 淳 氏

- ・「日本のコカ・コーラシステムによる水資源保全活動について」

日本コカコーラ株式会社 広報・渉外&サステナビリティ推進部 副社長 田中 美代子 氏

② パネルディスカッション（60 分程度）

<座 長>

九州大学大学院 農学研究院 教授 執印 康裕 氏

<パネリスト>

上記の話題提供者に加え、

一般財団法人もりとみず基金 理事 立川 真悟 氏

林野庁 森林整備部 治山課 課長 村上 幸一郎 氏